

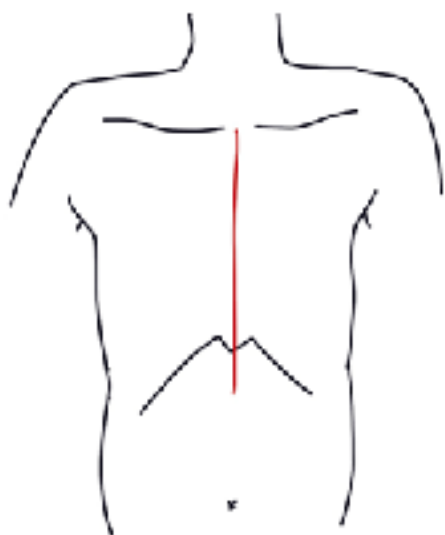
自動車の運転は、普通に直進している限りは、無理な姿勢ではありませんので、術後すぐに運転してもいいように思われるかもしれませんが、公道はとっさの判断、とっさの俊敏な動きが必要なことがあります。

個人差はありますが、骨の癒合からしっかりと強度が備わるのにおおよそ3ヶ月はかかると思われ、当科では術後3ヶ月は運転を禁止しています。



心臓血管外科★健康講座

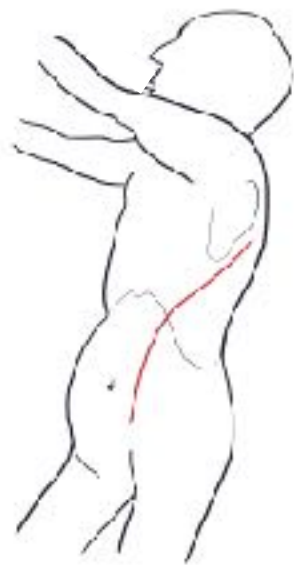
車の運転は、胸骨正中切開、ストリーニ一切開を受けた患者さんは、術後3ヶ月禁止です。周囲への交通事故、あるいは自損事故を防ぐための配慮です。



胸骨正中切開です。心臓手術全般、弓部大動脈までの大動脈手術で行います。

岩手県立中央病院心臓血管外科では、身近な医療情報を解説した健康講座を県民の皆さんに提供します。第31号は「心臓・胸部大動脈手術後の車の運転」です。

左図のような胸の真ん中を切開する方法を胸骨正中切開と呼んでいます。胸骨正中切開後の胸骨は通常1ヶ月以内には癒合します。しかし、まだ強度が不足しています。重いものを持ち上げたり、胸骨が左右に引っ張られるような運動をすると、せっかく治ってきている胸骨に強いストレスがかかり、痛みを強く感じる場合があります。



ストーン一切開です。背中からお腹までの大きな切開で、胸腹部大動脈人工血管置換術の際に行います。

左図のようなストーン一切開も治癒過程としては胸骨正中切開と同様と思われます。

いずれの切開でも、患者さん毎に栄養状態や元々の体力も違い、一概には言えませんが、術後3ヶ月くらいで強度が備わってくるようです。治りかけの骨へのストレスを少しでも和らげるため、バストバンドを術後3ヶ月装着していただいています。手術日から3ヶ月が経過したら、外していただいても構いません。

自動車の運転は、生活必需品の買い物などで退院後すぐにでも行いたいという患者さんの希望は強いです。しかし、あえて、当科では骨がしっかり治るまで術後3ヶ月は運転を禁止しています。自動車を使わない方法で、生活の工夫をしていただくようにしています。

その理由は、周囲への交通事故、あるいは自損事故を防ぐためです。まっすぐ前を向いて直進するだけならさほど問題はないでしょう。しかし、バックで後ろを振り向くなどの運動では痛みが出てしっかり後ろが見れず十分に確認ができないかもしれません。また、飛び出しなどへのとっさの判断も鈍っていることでしょう。

せっかく手術から回復されたのに、交通事故で誰かに危害を加えたり、自分や同乗した家族が事故に遭うのはあまりにもつらいことです。

岩手県立中央病院心臓血管外科

健康講座 第31号